

実（み）のある暮らし

宇部市 中野 朋子

実家の庭には父が植えた沢山の樹木があった。子供の頃のお気に入りには良い香りの沈丁花と金木犀、それから実が食べられるグミやイチジクだった。あの頃は花や果実の香りと味から季節を感じとっていたように思う。

その影響か我が家にも季節を感じられる樹木を植えている。梅やサクランボ、柿、柚子の木は娘たちに収穫の喜びを教えてくれた。

12 年ほど前、新聞に掲載されていた熊本県八代特産の晩白柚^{ばんぺいゆ}の木のオーナー制度に応募した。晩白柚は直径 25 ～ 30cm と柑橘類の中でも最大級のザボン^{ザボン}の一種で、1920 年に日本に伝わり主に八代地方で栽培されている。12 月から収穫が始まり 3 月頃までは美味しく食べられる。厚い皮に包まれた果肉はさわやかな甘みと酸味が特徴だ。その外観から、まずは飾って見て楽しみ、香りを楽しみ、果肉を食べて楽しみ、厚い皮でお菓子を作ることもできる。

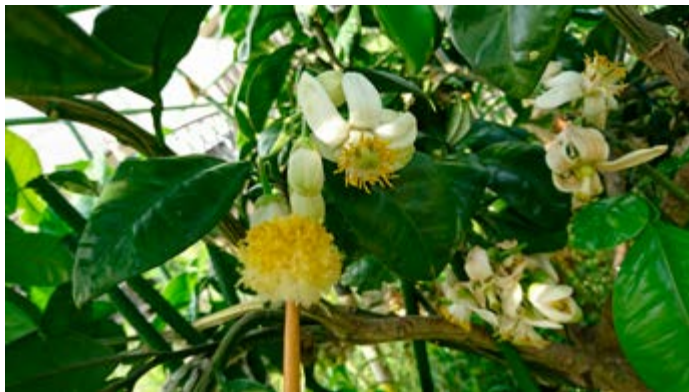


植樹から 3 年で初めて収穫した晩白柚

八代の日奈久温泉（600 年の歴史をもつ）に宿泊して、果樹園では割り当てられた木の受粉作業（5 月）・摘果作業（7 月）・収穫作業（12 月）に参加した。オーナーになった 1 本の木から 20 個ほどの大きな晩白柚の実が収穫できた。初めて参加した年の収穫祭のお楽しみ会で夫がじゃんけんゲームを勝ち抜いた。賞品でいただいた 60cm 程の晩白柚の苗木をさっそく庭に植えた。

植樹から 2 年半後に初めて花が咲いたので受粉してみた。自家受粉では結実は難しいと聞いていたので期待はしていなかったが、立派な実が一つだけ収穫できた。その翌年は実が大きくなり落ちてしまったが、次の年は何と 5 個も収穫できた。その後も数個の収穫があった年や、台風で枝や葉が落ちてしまい実らなかった残念な年もあった。4 年前に植木市で晩白柚の木をもう一本手に入れて隣に植えた。2 年前にやっと花が咲いたので他家受粉をすることができた。期待していた昨年は台風によられて収穫はゼロだった。だが今年は台風の影響がなかったお陰もあり、これまでに最高記録となる 6 個の実が育っている。年末には収穫祭を行うつもりである。残念ながら八代のオーナー制度は終了してしまったが、我が家の庭の晩白柚の木はこれからも大きな実をつけて私を幸せな気持ちにしてくれることだろう。

晩白柚の他に柚子やレモンの木からも収穫の喜びをもらっている。柑橘系の木は春に咲く花の香りが気持ちをリラックスさせてくれる。実が少しずつ大きくなってくると愛おしくなる。そして収穫は最高のご褒美だ。実（み）のある暮らしのお陰で実（み）のある暮らしが送れていることに感謝している。



春：さわやかな香りの中での受粉作業



植樹から 11 年になる今年は豊作です

俳句三句

徳 山 篠原 淳一

タンカーの朧に烟る炎暑かな
スリッパの響く廊下や春隣
母と子で軽い調髪夏の朝